

上下水道局

平成28年度 重点目標

- 1 健全経営による持続可能な事業運営の推進
- 2 安全でおいしい水の安定供給と真田水道事業の推進
- 3 上水道施設の計画的な維持・更新
- 4 下水道施設の計画的な維持・更新
- 5 上下水道技術の継承

平成28年度 重点目標管理シート

重点目標	健全経営による持続可能な事業運営の推進		部局名	上下水道局	優先順位	1位
総合計画における位置付け	第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第5節 安定した経営による上水道・下水道事業の継続	まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略 施策体系	2014市長マニフェスト における位置付け	-1-	
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(2) 支える財政基盤の改革 イ 健全な財政基盤の構築				
現況・課題	<p>上下水道事業経営は、公共性と経済性という両面の性質を保持した上において、持続可能なものでなければならない。多様化・高度化する利用者ニーズへの対応、サービスの充実や信頼性の向上を図りつつ、施設の老朽化に対応した維持管理及び更新に適切に対応していくためには、将来を見据えた事業計画、経営のスリム化、効率化が必要となる。こうした中で、将来にわたって安定的に事業を継続していくためには、中長期的な視野に立った経営の基本計画である「経営戦略」を策定し、それに基づき施設、財務、組織、人材等の経営基盤を強化することが重要となる。経営戦略は、将来的な需要を適切に把握するとともに、アセットマネジメント等を活用してその最適化を図ることを内容とする「投資計画」と、必要な財源を中長期的な経営の中で計画的かつ適切に確保する「財政計画」を策定することが基本となる。</p> <p>「財政計画」においては、最少の費用で最大の効果を挙げるための能率的な経営を前提として、料金、繰出金、企業債のバランスが重要であり、適切な料金算定が重要な課題となる。現行の上下水道料金は、平成25年度から平成28年度までの4年間を料金算定期間として、財政状況等を推測し設定されている。料金算定期間が平成28年度で終了するため、新たに平成29年度以降の上下水道料金について検討を進める必要がある。</p> <p>水洗化の促進については、下水道管渠の整備はほぼ終了したが、水洗化率は90.9%（H27.4.1現在）にとどまり、下水道事業の安定した経営と快適な生活環境を実現するためには下水道接続の促進が必要である。</p>					
目的・効果	<p>上下水道事業の経営基盤強化のため、中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を策定、公表し、同戦略に基づく経営を行い、将来にわたって安定的に事業を継続する。また、平成29年度以降の上下水道料金について検討を進め、現行料金を将来にわたって持続可能な経営の維持ができるか判断する。水洗化を促進することにより、下水道事業の安定経営と良好な生活環境、水環境を実現する。</p>					
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
上下水道料金の検討 (1) 上下水道料金の検討 (2) 「上下水道審議会」へ諮問 (3) 「上下水道審議会」の答申 (4) 必用に応じ条例改正	(1) 6月～10月 (2) 8月 (3) 10月 (4) 12月	平成29年度以降の上下水道料金について検討を進め、結論を得る。	上下水道料金の検討については、平成29年度から4年間の事業計画、収支計画等を作成し、8月29日に料金据え置きで上下水道審議会へ諮問した。9月28日に2回目の審議会を開催し、現在審議中。	3回にわたる審議を経て、10月27日に審議会から答申を受け、市では答申内容を尊重し、料金据え置きを決定した。		
「経営戦略」の策定 (1) 経営戦略の策定の検討 (2) 「上下水道審議会」における審議 (3) 「経営戦略」の策定	(1) 6月～2月 (2) 11～2月 (3) 3月	平成29年度から10年間の投資・財政計画を基本とした「経営戦略」を策定するため、中長期的な更新需要予測を行うとともに、収支均衡を可能とする財源の可能性を検証する。	今後10年間の投資・修繕計画である「事業計画」を作成し、それに基づいた財政推計を行った。これらを基礎として「経営戦略」を策定中。	素案について、審議会での4回の審議とパブリックコメントを実施した結果、2月15日の審議会で承認され、3月に市として決定した。		
収納率の向上 水道料金・下水道使用料(現年度分)	3月	収納率99%	水道98.00%、下水道97.83%、計97.91%（8月末現在）	水道99.26%、下水道99.15%、計99.20%		
水洗化の促進 公共下水道地域、農業集落排水事業地域の戸別訪問等による水洗化促進の実施	4月～3月	新規接続戸数700戸を目標とする	新規接続戸数 470戸 67.1%（9月末現在）	新規接続戸数 972戸 138.9% 新規接続目標の700戸に対し972戸接続して目標を達成した。		
市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			取組による効果・残された課題			
特記事項	<p>上下水道事業はライフラインとして一日たりとも欠くことができない重要な事業ではあるが、その経営環境は、給水人口の減少や節水機器の普及などにより料金収入が減少する一方で、各施設の更新・修繕による投資額の増加が見込まれている。また、大規模地震災害などに備え、施設の耐震化を進めなければならない。このような状況の中で、市民の皆さんに安定して水の供給を図るため、経営基盤の強化と財政マネジメントのため「経営戦略」を策定する。</p>					

平成28年度 重点目標管理シート

重点目標	安全でおいしい水の安定供給と真田水道事業の推進			部局名	上下水道局	優先順位	2位
総合計画における位置付け	第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第5節 安定した経営による上水道・下水道事業の継続	まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略 施策体系	2014市長マニフェスト における位置付け		-2-	
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け							
現況・課題	上水道事業は、上水道3、簡易水道4の計7事業で運営されていますが、これらの事業を1事業に統合することで水源の有効活用、効率的な水運用等による安心安全な水の安定供給、維持管理の省力化、効率化等による経営の健全化を図ります。 また、水源は河川の表流水、ダム水、地下水や湧水などで29箇所にとんでおり、湧水水源の中には、降雨時における水質が不安定となるものがありますが、一方で、真田地区には水質が安定し、水量も豊富な湧水があることから、真田地域簡易水道統合事業により、この湧水の有効活用を図ります。						
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 安定した湧水の活用を行うことにより、現在よりも効率的に安全でおいしい水を安定供給することができるようになります。 危機管理マニュアルの一つとして水安全計画を策定することにより、水源から給水栓に至る統合的な水質管理の実現を図ります。 						
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
水源水質検査の強化体制の継続 (1)水源の水質検査 (2)水質等自動監視設備設置	(1)4月～3月 (2)3月	(1)クリプトスポリジウム 11箇所 22検体 指標菌 22箇所 102検体 (2)上水道 水位計 3箇所 流量計 1箇所 伝送装置 3箇所	(1)クリプトスポリジウム 8箇所 12検体 検査実施 指標菌 22箇所 57検体 検査実施 (2)自動監視設備 水位計3箇所 【発注済】 流量計1箇所 【発注済】 伝送装置3箇所 【発注済】	(1)クリプトスポリジウム 11箇所 22検体 【検査完了】 指標菌 22箇所 102検体 【検査完了】 (2)自動監視設備 水位計3箇所 【1月設置完了】 流量計1箇所 【1月設置完了】 伝送装置3箇所 【1月設置完了】			
真田地域簡易水道統合事業の推進 つちや・滝の入水源を活用した新たな導・配水管の整備	4月～3月	L=2.0km	L = 2.2 km 【発注済】	L = 2.2 km 【完了】			
上水道事業統合認可 上田市水道事業の一元化	4月～3月	認可統合	認可申請準備中	H29.3月31日認可			
水安全計画策定	4月～9月	策定完了	8月1日付で策定済	8月1日付で策定済			
特記事項	市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・「安全でよりおいしい、質の高い水の供給」という市民ニーズに対応し、さらに安定的に効率よく水を供給するために各種の事業を実施します。		取組による効果・残された課題				

平成28年度 重点目標管理シート

重点目標	上水道施設の計画的な維持・更新			部局名	上下水道局	優先順位	3位
総合計画における位置付け	第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第5節 安定した経営による上水道・下水道事業の継続	まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略 施策体系		2014市長マニフェスト における位置付け	-2-	
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け							
現況・課題	上水道は、ガス、電気と並び市民の安全で快適な生活環境の確保のために必要不可欠なライフラインであり、一日たりとも休むことのできない重要な施設です。管路施設は、現在も創設当時のものが残存していることから、計画的な更新が必要であり、東日本大震災などの未曾有の大規模地震が発生していることから、管路施設の耐震化を進める必要があります。						
目的・効果	上水道施設の計画的更新や耐震化により、大規模災害はもちろんのこと、日常の管破裂などの減少が期待できます。計画的な改築更新を行うことにより、投資額の平準化が図られ、安定した事業運営が期待できます。						
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
上水道管路耐震化 管路の耐震化	4月～3月	L = 4.0 km (真田地域簡易水道統合事業を除く)	L = 3.8 km【発注済】 (真田地域簡易水道統合事業を除く)	L = 3.7 km【完了】 L = 0.5 km【発注済】(繰越：H29.7月末完了予定) (真田簡易水道統合事業を除く)			
ポンプ施設の設備更新 (1)久保田ポンプ場の設備更新 (2)須川ポンプ場の設備更新	(1)3月 (2)3月	(1)計装盤 1面 (2)ポンプ 2基 制御盤 1面	(1)計装盤 1面 【発注済】 (2)ポンプ 2基 【10月入札予定】 制御盤 1面 【10月入札予定】	(1)計装盤 1面 【12月更新完了】 (2)ポンプ 2基 【3月更新完了】 制御盤 1面 【3月更新完了】			
有収率の向上 漏水調査の実施と漏水箇所との修繕	3月	87%	84.8% (9月末現在) (参考：H27 9月末86.8%)	84.7% (参考：H27年度86.0%)			
浄水場及び施設の耐震全体計画策定	4月～9月	基幹施設の耐震化工事の優先順位を決定	耐震化全体計画策定 【委託業務発注済】 (業務期間～3月)	耐震化全体計画策定 【3月策定完了】			
特記事項	市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・水道管の耐震化を推進し、防災に努めます。			取組による効果・残された課題			

平成28年度 重点目標管理シート

重点目標	下水道施設の計画的な維持・更新			部局名	上下水道局	優先順位	4位
総合計画における位置付け	第2編 自然・生活環境 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第5節 安定した経営による上水道・下水道事業の継続	まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略 施策体系	2014市長マニフェスト における位置付け	- 2 -		
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け							
現況・課題	下水道管渠の整備はほぼ完了しましたが、快適な水環境を創造するためには下水道未整備箇所の早期の解消が必要です。また、人口の減少や少子高齢化の進行、省エネルギー化など、社会状況の変化に伴い、市民のライフスタイルも大きく変化し、下水の流入量も微増に留まっています。下水道施設の維持管理の効率化を更に図る上で、公共下水道施設への接続が有利と思われる農業集落排水施設については、公共下水道との統合についても検討が必要です。下水道が建設から維持管理の時代に移行していく中、施設の老朽化が課題となっており、老朽化が進む施設の計画的な更新を図るため、下水道施設長寿命化計画を策定し事業を実施しています。安定した下水処理を維持するため、計画に基づいて施設の更新を実施していく必要があります。						
目的・効果	良好な生活環境と水環境を形成するため、下水道未整備箇所の管渠工事を実施します。社会情勢の変化に対応した効率的な施設の維持管理を図るため、農業集落排水施設と公共下水道施設の統合計画を進めます。安定した下水処理を確保するため、下水道施設長寿命化計画による施設の更新を図ります。						
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
長寿命化事業の実施 上田、南部、丸子、菅平処理場の設備更新	4月～3月	4処理場の更新工事の実施	上田、南部、菅平の3処理場（債務負担工事）は継続して工事を実施中。 丸子処理場は6月に更新工事を発注済。	上田、南部、菅平の3処理場の更新工事を完了した。 丸子処理場（債務負担工事）の年度内更新工事分を完了した。			
下水道未整備箇所の解消 公共下水道計画区域内の未整備箇所の解消	4月～3月	未整備箇所の解消 上田地域：7か所解消 丸子地域：2か所解消	未整備箇所の解消 上田地域：5か所を解消し、2か所を9月に発注済。 丸子地域：2か所を11月に発注予定。	未整備箇所の解消 上田地域：8か所を解消 丸子地域：1か所を解消			
農業集落排水の公共下水道への統合事業推進 統合に向けた財産調査	4月～3月	3処理場の財産調査の実施 (藤原田、和子、荻窪)	財産調査に係る事前資料収集業務委託を12月に発注予定。	財産調査に係る事前資料収集業務委託を完了した。			
農業集落排水施設の機能強化事業の実施 岡処理場の計画概要書作成	4月～3月	岡処理場の計画概要書作成委託の実施	財源（国庫補助）の内示が無いため、継続して関係機関へ要望を行っていく。	補助財源を地方創生汚水処理施設整備推進交付金に見直し、事業認定に必要な3処理場（岡、本原南、本入）の計画概要書を作成した。			
特記事項	市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・清潔で快適に生活するための社会インフラ整備として、下水道管渠未整備箇所の解消を図ります。 ・下水道未普及地域の解消が図れ生活環境が向上するとともに河川などの水質改善が図れます。 ・下水道施設長寿命化計画に基づき、施設等の更新を行い経営の安定化と生活環境の維持に努めます。		取組による効果・残された課題				

平成28年度 重点目標管理シート

重点目標	上下水道技術の継承			部局名	上下水道局	優先順位	5位
総合計画における位置付け	第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第5節 安定した経営による上水道・下水道事業の継続	まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略 施策体系		2014市長マニフェスト における位置付け		- 2 -
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け							
現況・課題	上下水道建設から維持に携わってきた熟練技術者の退職や職員異動等により、技術力の確保が難しくなっており、上下水道技術者の育成及び技術の継承が課題となっています。今後、老朽化した施設の計画的な更新や災害時の対応など新たな課題もあることから、技術の継承に向けて計画的に取り組む必要があります。						
目的・効果	上下水道の技術を継続的に確保するため、職員に対して外部研修などの受講や資格取得の奨励を促進し人材育成を図ります。						
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
外部研修・資格取得の促進 継続的な外部研修の受講促進や資格取得の奨励による人材育成の実施	4月～3月	外部研修・資格取得研修受講 ・水道技術関係 延べ26人 ・作業資格取得講習会 延べ6人 ・下水道技術関係 延べ7人	外部研修・資格取得研修を受講した（9月末現在）。 ・水道技術関係 延べ9人 ・下水道技術関係 延べ5人	外部研修・資格取得研修を受講した。 ・水道技術関係 延べ28人 ・作業資格取得講習会 延べ6人 ・下水道技術関係 延べ7人			
防災訓練の実施 防災訓練の実施による危機管理対応能力の向上	4月～3月	応急給水訓練の実施 2回 緊急連絡管操作訓練の実施 1回	応急給水訓練を2回実施し、市外での訓練に2回参加した。緊急連絡管操作訓練を1回実施した。（9月末現在） ・応急給水訓練（局内）6/2実施 参加者36名 ・応急給水、漏水調査応援訓練（長野市）7/15実施 参加者9名 ・上田市総合防災訓練（市）9/3実施 参加者20名 ・応急給水応援訓練（練馬区）9/11実施 参加者2名 ・緊急連絡管操作訓練（県企業局）7/13実施 参加者15名	応急給水訓練を2回実施し、他事業体との訓練に2回参加した。また、県企業局上水道管理事務所と緊急連絡管訓練を2回実施した。 ・応急給水訓練（局内）6/2実施 参加者36名 ・応急給水、漏水調査応援訓練（長野市）7/15実施 参加者9名 ・緊急連絡管操作訓練（県企業局）7/13実施 参加者15名 ・上田市総合防災訓練（市）9/3実施 参加者20名 ・応急給水応援訓練（練馬区）9/11実施 参加者2名 ・緊急連絡管操作訓練（県企業局）7/13実施 参加者15名 ・小泉緊急連絡管通水訓練（県企業局）11/30実施 参加者10名			
特記事項	市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 快適な水環境を守るため、上下水道技術を継承する。			取組による効果・残された課題			